

第 2 章 環境調査

猛禽類調査



図25 (左上)クマタカの幼鳥
(右上)(右下)飛翔するイヌワシの姿
提供(3枚とも):菊田 浩二先生

ダム建設に伴う生物等への影響調査の一環として、鳥類に関する文献・資料調査を昭和48年から実施しています。平成4年度から鳥類の現地調査を実施し、平成9年度からは猛禽類の定点調査を実施しています。また、平成9年10月からは日本野鳥の会の専門家の指導を受けながら調査を行っています。

今後も、定期的な定点調査を実施することにしていきます。



第3章 コミュニケーション型国土行政

～ 水の未来を考える ～

副読本「ならのみず」作成



もくじ	
第1章	みずはめぐる・・・ 1 「奈良県」の特徴は？
第2章	みずははたらく・・・ 9 じゃ口の水はどこから来るの
第3章	みずはよみがえる・・・ 25 使った水のひみつ
第4章	みずはあばれる・・・ 45 洪水 <small>こうすい</small> が起きると...
第5章	みずは物語る・・・ 55 ならのみず「昔話」
第6章	みずの未来・・・ 75 「なぜ」から探検は始まる

図 2 7 平成 1 3 年春に発刊した副読本「ならのみず」 (左)表紙 (右)もくじ

私たちの生活と関わりの深い「水」を中心に、現代に伝わる祭りや水神、洪水や湯水との戦い、森林の働き、水確保への努力や水質改善などを総合的に「郷土の水」としてまとめました。次世代を担う児童たちが「水の大切さ」を知り、「節水の心がけ」「水源林の効果」「水環境の重要性」そして「水源地の人々への感謝」を育む一役を担えればとの思いから、平成 1 3 年の春に、関係者の協力を得て副読本「ならのみず」を発行することになりました。

奈良県下 2 5 1 校小学 4 年生を対象に配布いたしました。



図 2 8

「水」に対して多方向からアプローチされた副読本「ならのみず」ビジュアル重視で「わかりやすさ」と「子供たちの興味」を追求しました

～ 生きた教材を提供する ～

大滝ダム・学べる建設ステーション

シンボルのオオスギノトウがみなさんをお出迎え



豪雨体験室では、最大600mm/hの豪雨を体験できる



映像と模型でダムの役割を紹介

豪雨体験室などの体験施設を兼ね備えたパビリオン、ミズモリノヤカタ

図29 大滝ダム・学べる建設ステーション

大滝ダム・学べる建設ステーションは平成8年4月20日にオープン以来、多数の来場者を迎えています。パビリオン、建設現場の見学、土木の工法の実験など多彩な内容を盛り込み、水と土木とダムについて、「見て、触り、自ら考える」体験学習施設として、各方面から注目を集めています。

大滝ダム・学べる建設ステーション「ダム見学新聞」コンクール



図30 平成12年度ダム見学新聞コンクール表彰式記念撮影風景
(平成13年3月18日大滝ダム・学べる建設ステーションにて)

大滝ダム・学べる建設ステーションでは、子供たちを対象に大滝ダムで「見たこと、学んだこと、感じたこと」をまとめてもらう「ダム見学新聞コンクール」を行っています。

大滝ダムを見学した小学生が、見学後に復習を兼ねながら新聞を編集することで、ダム事業と水との関わり合いへの関心と理解をより深めることを目的にしています。平成12年度のコンクールは、ホームページやチラシで広く募集し、応募作品数が1000点を超す反響となりました。



平成12年度コンクール個人の部 奈良県知事賞 森島 千賀さんの作品



第1回（平成8年度）から第5回（平成12年度）までの作品集

図3-1 ダム見学新聞コンクール作品と作品集

ダム見学新聞コンクールの工夫点

- (1) 予習（ダム探検手帳の配布）・見学（ステーション見学）・復習（ダム・見学新聞の製作）の一連が行えるようにしています。
- (2) 新聞の様式（大きさ・配置等）は特に定めず、子供たちの個性を重視しています。
- (3) 入賞作品集を作成し、入賞者に配布しました。